

講演会型＋サロン型（中学校）

学校名等	岐阜市立岐阜清流中学校
実施日時	平成30年6月8日（金）10時～12時
会場	岐阜清流中学校アゴラ室
参加人数	34名
学習課題（分野）	コンプリメントトレーニング（子ども理解）
運営者の願い	昨年度PTA役員が、コンプリメントについて校長先生から学ぶ中で、このお話は是非会員にも伝えたいと感じたことや、講演会をサロン形式で雰囲気を盛り上げたいとの考えで開催された。

学 習 の 内 容

講師：山田隆徳 校長

<開講式>

・成人教育委員長：今年のテーマ「知る、語る、繋がる」のための第1回であり、講演であるが、サロン形式で話し合いができるように設定。特別支援学級のけやきのお菓子作りの学習（途中で来室）との連携もしていることを紹介される。



<講演会>

最初は PTA 司会者によるアイスブレイク

- ・自己紹介：わたしは〇〇な山田です。私の子は〇年で〇〇が良いです（良さをいう）を言う大変盛り上がり、話が弾む
- ・じゃんけんゲーム：校長のじゃんけんに負けた人が残る。これも盛り上がる。賞品もあり

●講話 講師：本で紹介「森田直樹：不登校は99%解決する」と「コンプリメントで子育ての悩みは解決する」。

①子どもの気になる事：

中学生になると子どもの変化が気になるが聞けない。

男と女の脳の違い（黒川伊保子氏より）母親であるから言えることがある。子どもをずっとよく見ている。これが大事。

②今朝・昨日、子どもの事でうれしい、こんな力があるという事はなかったか

保護者A：昨日が父の誕生日（前から子どもに母が言っていた）で昨日の朝3人の子がお父さんに「おめでとう」と言ったが褒めていない。⇒その時ほめてあげるべき

保護者B：食器の片づけをやってくれた。心ではうれしい。⇒ここで「うれしい」と言う事が大事

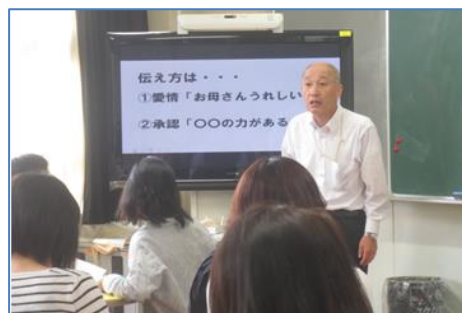
○その子に合った内容で、うれしいと感じたこと、良いと思ったことを具体的に話すことで自信がってくる。

<閉会>

PTA会長：なかなかできないが娘との会話が出来つつある。とにかくほめる。言い過ぎない。

<アンケートより>

- ・子どもの良いところをあたり前にしてきた自分に気づきました
- ・にこにこしてられる自分と子どもを想像してコンプリメントを実践していきたいと思いました。
- ・今までほめる自信をつけるという行動をしていなかったので意識をしてやってみたいと思います。自分も成長すると思って頑張りたいです。
- ・このような学び交流ができる機会はとても有益だと感じた。ありがとうございました。楽しく学べました。
- ・アゴラ（会場）なのでなごやかに話を聞けたり意見が言えたりしたのが良かった。
- ・他学年の親さんと一緒だったので色んなお話が出来て良かった。



POINT

- ・コンプリメント：コップに自信の水を入れる。（ほめる事）
「1日3回やってください」
- ・愛情：お母さんうれしい 承認：〇〇の力がある
この2つを「その時その場で」
- ・コンプリメントは何歳でもよい（よく見ている人が行う）



●サロン形式が自然

- ・グループが編成され、最初のアイスブレイクで雰囲気が良くなり、盛り上がりを作っている。サロン形式に慣れているようで進め方が意図的です。
- ・校長先生のプレゼンを使ってのわかりやすい事例の紹介やゲーム形式の進行で「ほめること、ほめ方」についての理解が高まっています。



●学校と委員会の連携がよい

途中で特別支援学級の生徒が作った茶菓子が配られ、雰囲気をさらに上げています。

特別支援学級には保護者が書いたお菓子の感想を張り合わせた感謝を表す作品が送られるというアイデアが素晴らしいですね。

